TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　435語

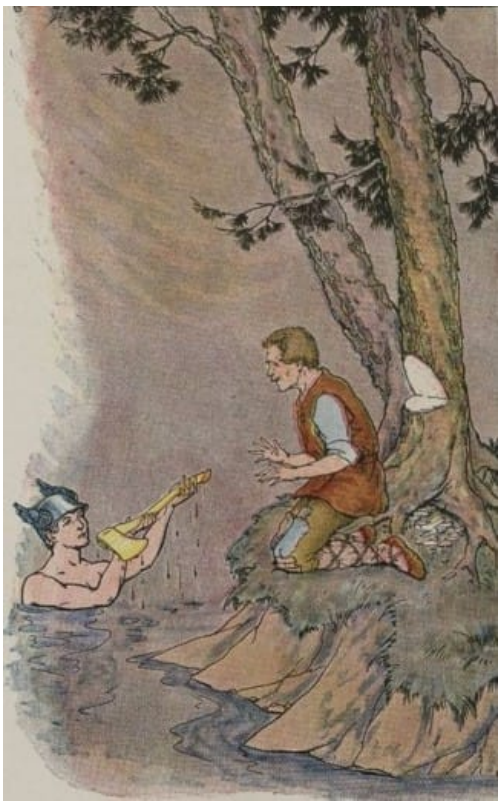
Mercury and the Woodman

メルクリウスときこり

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：Susan Morin

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　池におのをおとしてしまったまずしいきこり。神さまが金のおのをもってあらわれ「これはおまえのおのか」とたずねます。



A poor Woodman was cutting down a tree near the edge of a deep pool in the forest. It was late in the day and the Woodman was tired. He had been working since sunrise and his strokes were not so sure as they had been early that morning. Thus it happened that the axe slipped and flew out of his hands into the pool.

The Woodman was in despair. The axe was all he possessed with which to make a living, and he had not money enough to buy a new one. As he stood wringing his hands and weeping, the god Mercury suddenly appeared and asked what the trouble was. The Woodman told what had happened, and straightway the kind

Mercury dived into the pool. When he came up again he held a wonderful golden axe.

"Is this your axe?" Mercury asked the Woodman.

"No," answered the honest Woodman, "that is not my axe."

Mercury laid the golden axe on the bank and sprang back into the pool. This time he brought up an axe of silver, but the Woodman declared again that his axe was just an ordinary one with a wooden handle.

Mercury dived down for the third time, and when he came up again he had the very axe that had been lost.

The poor Woodman was very glad that his axe had been found and could not thank the kind god enough. Mercury was greatly pleased with the Woodman's honesty.

"I admire your honesty," he said, "and as a reward you may have all three axes, the gold and the silver as well as your own."

The happy Woodman returned to his home with his treasures, and soon the story of his good fortune was known to everybody in the village. Now there were several Woodmen in the village who believed that they could easily win the same good fortune. They hurried out into the woods, one here, one there, and hiding their axes in the bushes, pretended they had lost them. Then they wept and wailed and called on Mercury to help them.

And indeed, Mercury did appear, first to this one, then to that. To each one he showed an axe of gold, and each one eagerly claimed it to be the one he had lost. But Mercury did not give them the golden axe. Oh no! Instead he gave them each a hard whack over the head with it and sent them home. And when they returned next day to look for their own axes, they were nowhere to be found.

> **Honesty is the best policy.**

まずしいきこりが、森のふかい池のほとりで、木を切りたおしていました。もう日がくれかかっていて、きこりはつかれていました。日の出からずっとはたらいていたので、おのをふるう手も、朝早くのようにはしっかりしていませんでした。そのせいで、おのが手からすべって、池の中へとんでいってしまいました。

きこりは、すっかりとほうにくれてしまいました。そのおのは、くらしをたてるためのたった1つの道具で、新しいのを買うお金もなかったのです。きこりが手をもみしぼってないていると、とつぜんメルクリウスの神さまがあらわれて、どうしたのかとたずねました。きこりがわけを話すと、やさしいメルクリウスさまは、すぐに池へとびこみました。ふたたびあがってきたとき、メルクリウスさまは、すばらしい金のおのをもっていました。

「これが、おまえのおのかね？」とメルクリウスさまはきこりにたずねました。

「いいえ」としょうじきなきこりは答えました。「それは、わたしのおのではありません。」

メルクリウスさまは金のおのを岸におくと、また池にとびこみました。こんどは銀のおのをもってあがってきましたが、きこりはまた、自分のおのは木のえのついた、ただのふつうのおのですと言いました。

メルクリウスさまが3回目にもぐって、あがってきたときには、なくしたおのそのものをもっていました。

まずしいきこりは、おのが見つかってとてもよろこび、やさしい神さまに、なんどもなんどもおれいを言いました。メルクリウスさまは、きこりのしょうじきさが、とても気に入りました。

「おまえのしょうじきさは、すばらしい」とメルクリウスさまは言いました。「ほうびに、3本のおのをぜんぶあげよう。金のおのも、銀のおのも、おまえのおのもだ。」

しあわせなきこりは、たからものをもって家に帰りました。そして、まもなく、きこりの運のよい話は、村じゅうのみんなに知れわたりました。さて、村には、自分たちも同じ運をかんたんに手に入れられると思ったきこりたちが、何人かいました。きこりたちは森へいそいで行き、ここに1人、あそこに1人と、自分のおのをやぶの中にかくして、なくしたふりをしました。それから、わあわあないて、メルクリウスさまにたすけをもとめました。

すると、ほんとうにメルクリウスさまはあらわれました。まずはこの人、つぎはあの人のところへと。メルクリウスさまは1人1人に金のおのを見せました。すると、みんな、われ先に、それこそ自分がなくしたおのだと言いました。けれど、メルクリウスさまは、金のおのをあげませんでした。とんでもない！そのかわりに、金のおので1人1人の頭をコツンとつよくたたいて、家へ帰らせました。そして、つぎの日、自分のおのをさがしにもどってみると、おのはどこにも見つかりませんでした。

> **しょうじきがいちばんです。**

たんご と クイズ メルクリウスときこり

Woodman きこり	**tree** 木	**pool** 池
forest 森	**axe** おの	**golden** 金の
silver 銀	**honest** しょうじきな	

Q1 メルクリウスさまが、さいしょに池からもってきたのは？

① 銀のおの　② きこりのおの　③ 金のおの

Q2 しょうじきなきこりがもらったのは？

① 3本のおのぜんぶ　② 金のおのだけ　③ 自分のおのだけ

Q3 まねをしたきこりたちは、どうなった？

① 金のおのをもらえた　② 自分のおのまでなくした　③ 銀のおのをもらえた

こたえ

Q1 ③ さいしょにもってきたのは、すばらしい金のおのでした。でも、きこりは「わたしのではありません」と答えました。

Q2 ① しょうじきさがとても気に入ったメルクリウスさまは、金と銀と自分のおの、3本ぜんぶをくれました。

Q3 ② うそをついたきこりたちは、頭をたたかれ、つぎの日には自分のおのも見つからなくなってしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Susan Morin（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。